

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2024年 第16週（4月15日～4月21日）

## 今週のコメント

～A群溶血性レンサ球菌咽頭炎～ 咳エチケット、手洗いが重要

### 定点把握感染症

「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 増加」

第16週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,984例であり、前週比16.1%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、流行性角結膜炎の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ5.09、4.41、3.53、1.07、0.51である。

感染性胃腸炎は前週比10%増の998例で、三島6.63、中河内6.50、大阪市南部6.39、泉州5.67、南河内5.38であった。

RSウイルス感染症は12%増の865例で、大阪市北部12.71、大阪市東部5.67、大阪市西部4.50である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は37%増の691例で、大阪市南部6.39、北河内5.32、南河内4.63であった。

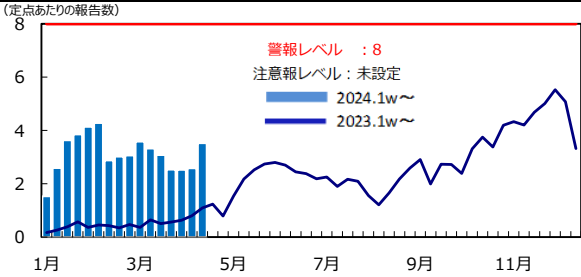
手足口病は31%増の209例で、泉州2.67、中河内1.45、大阪市南部1.28である。

流行性角結膜炎は21%減の26例で、豊能1.75、大阪市南部1.25、大阪市北部0.80であった。

インフルエンザは20%減の314例で定点あたり報告数は1.03である。中河内2.00、大阪市北部1.30、三島1.04、北河内1.03、泉州0.97であった。

新型コロナウイルス感染症は8%増の974例で定点あたり報告数は3.20である。泉州3.82、北河内3.75、大阪市北部3.65、大阪市南部3.44、南河内3.42であった。5歳から19歳までの年齢階層で増加した。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



RSウイルス感染症

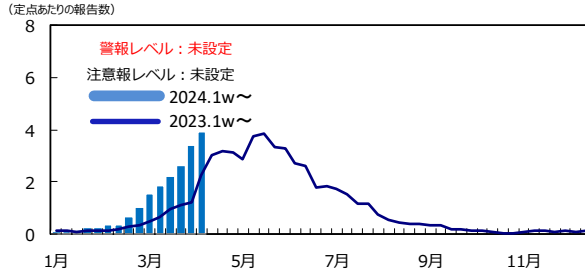


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2024年 第16週4月15日～4月21日）

第16週の順位	第15週の順位	感染症	2024年 第16週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2023年 第16週の 定点あたり 報告数	2024年第16週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	5.09	10%増	5.83	1歳_13%
2	2	RSウイルス感染症	4.41	12%増	2.92	1歳_33%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.53	37%増	1.09	4歳_14%
4	4	手足口病	1.07	31%増	0.16	1歳_49%
5	6	流行性角結膜炎	0.51	21%減	0.33	20歳以上_65%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	1.03	20%減	0.78	20歳以上_21%
参考		新型コロナウイルス感染症 (COVID-19定点報告疾患)	3.20	8%増	-	10-19歳_16%

新型コロナウイルス感染症は、定点種別が異なるため、参考として記載しています。

[詳細はリンク先の『令和2年11月2日以降\(大阪府\)』の情報をご覧ください。](#)

[詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症\(大阪府感染症情報センター\)』の情報をご覧ください。](#)

突発性発疹については、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。

2023/24年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

# 第16週のコメント

～侵襲性髄膜炎菌感染症～ 2023年、大阪府では、3例報告された。

全数把握感染症																																					
侵襲性髄膜炎菌感染症																																					
<p>侵襲性髄膜炎菌感染症は、髄膜炎菌 (<i>Neisseria meningitidis</i>) による侵襲性の感染症である。潜伏期は通常2～10日で、髄膜炎例では頭痛、発熱、髄膜刺激症状、痙攣、意識障害を示し、敗血症例では発熱、悪寒、ショック、播種性血管内凝固症候群 (DIC) を呈する。髄膜炎ベルト (meningitis belt) とよばれるアフリカ中央部で発生が多く、日本では、学生寮等で集団発生の報告がある。治療には、ペニシリン系抗菌薬と第三世代セフェム系抗菌薬が有効である。患者との接触者には、緊急に、リファンピシン、シプロフロキサシンやセフトリアキソンの予防投与が行われる。日本では、2015年より、4価髄膜炎菌 (血清型A、C、Y、W-135) ワクチンの任意接種が開始されている。</p> <p><a href="#">髄膜炎菌性髄膜炎とは (国立感染症研究所)</a>  <a href="#">侵襲性髄膜炎菌感染症について (厚生労働省)</a></p>	<h3>年別累積報告数</h3> <p>2024年は大阪府第16週時点(3例)                  全国第15週時点(10例)</p> <table border="1"> <caption>年別累積報告数 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>大阪府累計</th> <th>全国累計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2014</td><td>5</td><td>35</td></tr> <tr><td>2015</td><td>2</td><td>30</td></tr> <tr><td>2016</td><td>3</td><td>40</td></tr> <tr><td>2017</td><td>3</td><td>25</td></tr> <tr><td>2018</td><td>4</td><td>45</td></tr> <tr><td>2019</td><td>7</td><td>50</td></tr> <tr><td>2020</td><td>2</td><td>30</td></tr> <tr><td>2021</td><td>1</td><td>10</td></tr> <tr><td>2022</td><td>1</td><td>15</td></tr> <tr><td>2023</td><td>3</td><td>20</td></tr> <tr><td>2024</td><td>3</td><td>10</td></tr> </tbody> </table>	年	大阪府累計	全国累計	2014	5	35	2015	2	30	2016	3	40	2017	3	25	2018	4	45	2019	7	50	2020	2	30	2021	1	10	2022	1	15	2023	3	20	2024	3	10
年	大阪府累計	全国累計																																			
2014	5	35																																			
2015	2	30																																			
2016	3	40																																			
2017	3	25																																			
2018	4	45																																			
2019	7	50																																			
2020	2	30																																			
2021	1	10																																			
2022	1	15																																			
2023	3	20																																			
2024	3	10																																			

表2. 大阪府全数報告数 (2024年 第16週4月15日～4月21日)

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります (報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。)

	疾患名 ( )内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1			1						25
5類感染症	アメーバ赤痢	1							1		11
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2		1						1	50
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1					1				38
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1							1		21
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1								1	3
	侵襲性肺炎球菌感染症	1				1					80
	梅毒	24				1	2		1	20	499
	百日咳	2								2	17
結核 (2024年2月分)	結核 新登録患者数：41名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 19名) (府内累積報告数 118名、内 肺・喀痰塗抹陽性 49名)										

(2024年4月23日 集計分)